

BOOK REVIEW

無明舎出版『鶴の湯温泉ものがたり』1999年。

全国温泉ランキングやテレビの旅番組ではもうすっかり常連となった秋田県仙北市田沢・乳頭温泉郷にある「秘湯鶴の湯」の物語である。

鶴の湯は、元禄年間（1688－1704年）に創業、秋田藩主・佐竹公（清和源氏の末裔）の湯治場として、名家羽川氏により代々受け継がれてきた名湯である。1981年、13代目の経営者である羽川健次郎氏から、佐藤和志氏（(有)鶴の湯温泉会長）に継承された。

佐藤氏は歴史ある湯治場さらには、秘湯としての趣を守りながら、現代の若い世代にも受け入れられるよう長年にわたり懸命の努力を積み重ねてきた。具体的には乳白色の広い露天風呂、水車による自家発電、新本陣・東本陣の建設、水洗トイレの配備、通年営業を可能とした除雪ヤードや散策路（ツアールの森）の整備などで、これらは、正に「不易流行」の経営方針を体現するものと言える。佐藤氏にお会いする度に、これまで、幾度の苦難を乗り越えてきたとは思えないような柔和で謙虚なお人柄と次々と湧き出ずる斬新な発想に自然と心を引き付けられてしまう。

本書は、ある経営者が伝統を引き継ぐ重圧を逆に糧として、じっくりと高みを目指し、日本の温泉文化のコンセプトを創出した研究事例を紹介する経営書でもある。



☆今なお江戸時代の面影を残す本陣



☆小橋の向こうに湯屋が並ぶ